

東交大同窓会会報

第 43 号

令和元年九月一日

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 武田浩一
編集長 岩井優太

武田新会長推挙について

会長 半沢 貞夫



平成最後の三月
幹事会において、
川島顧問から引
き継いだ会長職

を十年となる前に退きたいことと、長年副会長としてご尽力を頂いた武田浩一さんに次期会長を推挙したい旨お諮りしました。会則上、年度総会において決定すべき事柄ではありますが、区切りとなる新年度より実質上の職掌をお願いしたいことを説明のうえ、幹事会のご了解を頂き、総会においてご承認をお願いするにといたしました。

武田さんは、平成二十五年より副会長兼会計担当として、また学校の特別教養講座の講師としてもご活躍され、同窓会、学校に寄与するところ大であることから推挙させていただきました。

会長任期中、同窓会活動も、会報発行のほか、新たに学園祭での同窓会コーナ

ーの設置、貸切列車の開催、在学生相談会などの企画、また短大六〇周年、新校舎落成、学園創立九〇周年など様々な事象に立ち会ってまいりました。それに伴い幹事会の開催回数も増え、勤務実態が不規則な鉄道関係に従事する幹事・役員が多いことから出席幹事に偏りが出て、一部の皆さんにご負担を重ねる結果となりましたが、心を合わせて乗り切って頂きましたことを感謝申し上げます。

私は就任に当たって、同窓生のご活躍する鉄道会社が、全国のJRはじめ大小私鉄に及ぶことから、そこで培った実務経験は同窓会、学校の宝であり、その発掘のためには企業、地域等横に繋がる支部を設置し、支部内、支部間での情報交換、研究を行い、本部同窓会は独自講座など発表の場を提供する。これにより在学生と企業の橋渡し、各社間の情報共有、また交通問題の探求等の連携という新奇な思いを持ちました。思い半ばですが、このことは我が国唯一「交通」と名の付く学校同窓会ではの成せる業と思います。皆様には、今後とも同窓会、学校の益

々発展に結びつく、意義ある活動の展開にご協力を賜りますようお願い申し上げます。(第十五回生 元交通新聞社勤務)

我々をとりまく「今」と「これから」

副会長 武田 浩一



日頃、松岡学
長をはじめ学校
の皆さま、また
半沢会長のもと
同窓会生の皆さま

まには大変お世話になっております。この度私が同窓会活動に携わり十数年経ちますが、本年度より会長を引き継ぐこととなりました。

私は鉄道運転士として普段から業界の流れを肌で感じております。その中で思う所をここで記してまいります。

あらゆる業界で省力化、効率化が進む中、自動運転試験を行う鉄道会社も現れております。それに対して、自動運転を行う新交通システムの事故があり、自動で行う事でのリスクも目の当たりにしております。また工事の作業ミスによる脱線事故や世間を騒がせるミスはよく起きており、業界問わずとすれば、報道でヒューマンエラーを目にしない日は皆無

です。機械の作業に、人間の仕事がつて変わる過渡期を生きていると言えます。しかし機械にとって代わるまでは、システム、マニュアル、技術の伝承を行うのは我々「人間」であり、AI化するこ
とになるうとも、今現在の我々がするべき命題となります。

そして、オリンピックも控え、鉄道業界ではインバウンド対応(おもてなし)などのマンパワーが強く求められています。今後、在学生また我々同窓生の活躍の場が多くなると予想されます。皆さまにおかれましては身体に気を付けながらも、日々の暮らしを立てながら修練に勤しんでほしいです。

同窓会活動については、短大八階に学園と共用の同窓会室を設けていただき、年数回の幹事会また東交祭にて活用させていただきます。いたしております。幹事会の中でまたそのあと設ける懇親会では、おもに交通業界に身を置く同窓会生による情報交換も盛んに行っております。ご興味ある方は、まずメールにて連絡をいただければと存じます。

同窓会生の皆さま、短大の今後の発展について大小問わずご協力の程を何とぞよろしくお願い申し上げます。

(第四十一回生 東京急行電鉄勤務)

平成三〇年度事業報告

学長 松岡 弘樹



同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

平成三〇年度の短大の事業報告をいたします。本学では、「質実剛健」を建学の精神とし、「交通産業関連分野でリーダーシップを発揮する教養ある専門性を有する人材の育成を目指す」ことを教育理念としております。さらに、これを具現化するために五つの教育目的・目標を掲げて、毎年、PDCAサイクルを回すことにより、教育環境の改善を行ってききました。

平成三〇年度は、主に下記の事業を実行することにより、本学のさらなる発展に取り組みました。

(一) 新校舎の活用

平成三〇年度は新校舎が竣工し、本学の教育環境は大幅に改善されました。これに伴い、①Webサイト、各種広告媒体での新校舎のアピール、②オープンキャンパス、体験入学会、学園祭における

施設見学、③コンピュータ室の設置、図書館スペースの拡大、グループ学習室の設置等の学習環境の充実に基づく指導の強化、④同窓会・校友会室の設置による卒業生との連携の強化等の活用策を講じました。

(二) カリキュラム編成の充実

旧校舎では教室数が限られていたことから、時間割を組む上で制約がありました。したが、新校舎の竣工に伴い教室数が増え、カリキュラム編成上の自由度が増すことになりました。具体的には、教室数の増加により、①同一科目群の科目の重複の減少、②能力別に複数配置していた基礎ゼミ・実務基礎能力論、五つの専門ゼミなどの専任教員担当の必修科目の同一時間帯での配置、③教室の収容数オーバーによる時間割変更の解消等により、カリキュラムの充実とともに、学生の履修の幅が広がることになりました。

(三) Webサイト・広告媒体の見直し

学生募集の充実の観点から、本学のWebサイトをデザイン性、見やすさを主眼として、全面的な見直しを図りました。また、広告媒体は、従来の広告媒体に加えて、一般紙への広告等を行うことによ

り、入学希望者の増加を図る対策を講じました。

(四) 研究環境の充実

新校舎の竣工に伴い、専任教員個人の研究室が設けられたことから、研究環境は改善されました。また、平成二十九年に研究環境の充実の一環として、海外の学会に参加する際の旅費・交通費を補助する制度を新設し規程を整備しましたが、平成二十九年に続いて平成三〇年度もこの制度を利用して、海外の学会に参加した教員がいました。さらに、研究委員会を中心として、研究紀要の執筆要領の見直しを図ることにより、紀要の充実を図りました。

(五) 安定的な財政構造を構築する

本学の財政状況は、平成二十七年までは一定数の学生を確保してきたことから、安定的に推移し、事業収支差額は黒字を維持してきました。平成二十八年度は入学者数の減少によって事業収入が減少しましたが、平成二十九年度は入学者数の回復によって事業収入が増加しました。

平成三〇年度は、受け入れ可能な最大数の入学生を確保することが出来た結果、

事業収入は増加しました。安定的な経営体制の構築の面からも、今後も継続して一定数の学生を確保する施策を講じていく所存です。

少子化の一層の進行等により、今後、本学を取り巻く状況は益々厳しさを増すものと思われます。我々教職員一同は、一丸となって、皆様の母校である本学の灯を絶やすことのないよう施策を講じる所存ですが、今後も引き続き短大への同窓会員の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成三〇年度学事報告

学科長 高橋 真悟



東京交通短期大学・学科長の高橋真悟です。私の方から、平成三〇年度の学事報告をさせていただきます。

一、新・退任教職員について

【退任教員について】

平成三〇年度をもって、以下の先生方

が退任されました。

(専任教員) 水野有希専任講師

(非常勤教員) 佐藤信太郎講師、篠原隆講師、谷川寿郎講師、夏城らんか講師、山口隆正講師

ご退任された先生方の、短大への尽力に感謝すると共に、今後のご活躍をお祈りさせていただきます。なお、「鉄道運転論」をご担当されていた藤原浩史先生につきましては、昨年度に病気のため、ご逝去されました。先生の本学へのご尽力に感謝すると共に謹んでお悔やみを申し上げます。

【新任教員について】

平成三十一年（令和元年）度より、以下の先生方が新たに赴任されることになりました。

(専任教員) 眞中今日子専任講師

(非常勤教員) 國部友弘講師、関修講師、竹内由利子講師

各先生方の専門分野で培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

二. 学校行事について

平成三〇年度の学校行事に関しては、前期は（四月）新校舎での一年次および

二年次オリエンテーション、入学式（五月）学外レクリエーション（シチズンプラザにてボウリング大会）、（七月）豊昭学園創立九〇周年式典、（八月）前期定期試験、オープンキャンパス（第二回、第一回は台風のため中止）の各行事を実施しました。

後期は、（九月）オープンキャンパス（第三回）、後期ガイダンス、東交祭、（十月）交通見学会（上毛電気鉄道車庫見学会）、（十二月）専門ゼミ発表会・説明会、（一月）後期定期試験の各行事を実施し、三月は十五日（金）に、池袋メトロポリタンにて卒業式を挙行いたしました。また、体験入学会につきましては、概ね毎月一回実施いたしました。

例年通り、入学式と卒業式には、同窓会会長の半沢貞夫先生にご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。東交祭には、同窓会ブースを設け、学生・来校者との交流の場を提供していただきました。同窓会役員の方々の学校行事へのご協力に感謝いたします。

三. 時間割について

平成三十一年（令和元年）度の時間割と特別教養講座カリキュラムが別表のようになっています。特別教養講座につき

ましては、引き続き、前同窓会会長の川島一郎先生、同窓会会長の半沢貞夫先生、同窓会副会長の武田浩一先生の三人の先生に講義をご依頼しております。

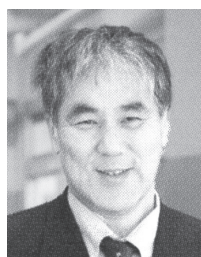
例年ご案内いたしておりますが、特別教養講座は公開講座となっております。昨年四月に竣工しました短大新校舎での講義をお聞きになつて、学生時代を思い出していただくのはいかがでしょうか。同窓会会員の皆様のご参加をお待ちしております。

平成三〇年度就職状況及び

平成三十一年（令和元年）度

就職支援

キャリア支援室 栗原 圭二



同窓会の皆さま、本学キャリア支援室でお世話になっております栗原と申します。

同窓会の皆さまには、就職支援の一環としての出張講義や後輩へのアドバイス等におきまして、大変お世話になっております。

平成三〇年度就職状況についてですが、

卒業生八十二名に対して就職希望者七十六名であり、七十四名が就職先を確定し卒業いたしました。進学希望は三名であり、うち一名が四年制大学へ編入しております。

平成三〇年度は、JR 4 社に七名、東武グループに九名、東京急行電鉄に四名、東京都交通局協力会に六名など鉄道企業就職が四十九名となりました。また、前年度に就職していない企業への就職が目立ちました。えちごトキめき鉄道や立山黒部貫光等の地方の鉄道会社にも入社しております。今年度以降も鉄道会社に入りたい学生の思いを大事にしていきたいと思っております。

平成三十一年（令和元年）年度は、昨年引き続き、就職活動スタートについては三月、選考開始は六月となっております。しかしながら近年の傾向ですが、前年と比較しても実質的な選考試験や内々定の時期がさらに早まったと感じております。八月一日現在、鉄道企業の内々定者は三十五名となっております。今年度は久しぶりに、福島交通（飯坂電車）の内々定者も出ています。選考中の鉄道企業やこれから選考の鉄道企業もまだまだありますので、引き続き受験中または受験を予定している学生も多くおりま

す。その他の交通関連企業（バス会社等）への内々定者が六名、一般企業の内々定者は十六名となっております。

今年度は昨年度に引き続きキャリア系授業をさらに活用させていきます。なかでも、企業へのインターンシップを含む科目「学外実習」においては、東武鉄道グループのインターンシップ・西武鉄道練馬駅での駅務実習に加えて、平成二十九年より横浜市交通局にもご協力頂いてインターンシップを実施しているところ。鉄道企業以外にも東急トランセ・国際興業のバス会社二社においてもインターンシップを実施していただいております。また、「学外実習」のインターンシップ事前講習においては、小田急電鉄の方に協力を頂いております。来年度以降、インターンシップにご協力頂ける企業の方がいらつしやいましたら、どうぞよろしく願います。

同窓会の皆様とは、就職支援の観点から、もぜひ先輩に対していろいろな経験談をお話しいただけると幸いに思っています。今年度は九月後半までに大手企業の採用が決まっていくと思いますので、東交祭などにお越しの際はぜひキャリア支援室にお立ち寄り、進路についての疑問質問をお気軽にしてください。また、ぜひ

求人があればお声がけいただければ幸いです。

最後に、平成三〇年度の就職・進学状況について簡単に報告させて頂きます。

平成三十一年三月卒業生八十二名中、交通関連企業へ六十一名（昨年同時期四十八名）、一般企業十三名（昨年同時期十一名）、進学一名（昨年同時期一名）という状況でした。（四月三〇日現在）

鉄道関連の就職先は次の通りです。

【鉄道関連企業別内定者数】

東日本旅客鉄道	1名（昨年2名）
東海旅客鉄道	1名（昨年1名）
西日本旅客鉄道	1名（昨年1名）
北海道旅客鉄道	4名（昨年2名）
新幹線メンテナンス東海	1名（昨年無）
東京地下鉄	1名（昨年1名）
東武ステーションサービス	9名（昨年4名）
東京急行電鉄	4名（昨年無）
京浜急行電鉄	1名（昨年無）
伊豆急行	1名（昨年無）
名古屋鉄道	1名（昨年無）
大阪市高速電気軌道	1名（昨年無）
東京臨海高速鉄道	2名（昨年無）
東葉高速鉄道	1名（昨年無）

京葉臨海鉄道 1名（昨年無）
関東鉄道 3名（昨年無）
えちごトキめき鉄道 1名（昨年無）
立山黒部貫光 1名（昨年無）
東京都営交通協力会 6名（昨年10名）
JR東日本ステーションサービス 1名（昨年3名）
JR東日本運輸サービス 2名（昨年2名）
JR千葉鉄道サービス 1名（昨年無）
JR西日本交通サービス 2名（昨年無）
日本レストランエンタプライズ 2名（昨年無）

平成三十一（令和元）年度入試報告

入試委員長 濱 雄亮



平成三十一（令和元）年度入学者を選抜した入試（平成三〇年度実施）は、志願者数一四六名、合格者数一〇五名、入学者数一〇三名でした。定員の八〇名を二十三名上回り、現在受け入れ可能な

人数の上限（定員の1.3倍未満）まで確保することができました。昨年度と比べると、志願者は一名の増加、入学者は同数となりました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

昨年度に引き続き、多数の志願者数の維持と上限いっぱいの入学者数を確保できた要因は複数考えられますが、とくに以下の三つが大きな要因だと考えられます。

第一に、平成二十八年度から体験入学会の回数を年間七回から十四回に倍増させたと同時に、予約を不要にして、参加しやすい状況を維持していることです。さらに、そうしたイベントの参加が二回目以上の方には、志望理由書や小論文の添削指導および面接指導を行うなどの特典をつけました。私自身も志望理由書の添削指導を何度か担当しましたが、繰り返し添削に訪れ、少しずつ良くなっている受験生を見ることができました。これらの結果として、平成三〇年度のオープンキャンパスと体験入学会を合わせた参加者数は、平成二十九年度と同様の四三〇名以上、保護者などの同伴者を含めた参加者合計も平成二十九年度と同様の七〇〇名以上となりました。このように本学に興味を持ってもらえる状況の持続

が、入試の志願者数の維持に結び付いていると考えられます。

第二に、新校舎の建設が挙げられます。平成三〇年四月に竣工した新校舎をイベントやホームページやガイドブックで宣伝できました。これらの広報戦略は、入試委員会と広報委員会、さらにIT委員会が連携して実施しております。引き続き、この連携を発展させていく予定です。なお平成三十一（令和元）年からはブログ記事も続々と公開しており、様々な面から本学に興味をもってもらえるように努めております。

第三に、九〇%台後半という高い水準の就職率を維持していることです。受験生はもとより、保護者にとっても、就職率は非常に気にかかることです。本学の就職率や就職先の一覧を見て、安心される保護者の方は非常に多いです。進路委員会の教員を中心に教職員が一丸となって支えていることはもとより、同窓会の皆さまのご活躍が、企業から本学への評価の維持・向上につながっているものと思います。

日本の短期大学の学校数および学生数は、減少し続けており、全国の短期大学で定員割れが深刻化しています。日本私立学校振興・共済事業団の調べによる

と、平成三〇年度に定員割れを起こしている短期大学は二二二校にのぼり、ついに短期大学全体（三〇二校）の七割を超えました。このように、短期大学の入学者確保は非常に厳しい状況に置かれています。その中であって、本学は定員の一二〇%以上の入学者を連続して確保しております。全国津々浦々での同窓会の皆さまのご活躍が、本学の情報の検索やイベントへの来場の後押しになっているものと存じます。深く御礼申し上げます。本学は、令和元年七月現在、昨年度とほぼ同程度の体験入学会とオープンキャンパスの参加者を確保しています。同窓会の皆さまにおかれましては、交通・観光の世界に興味をお持ちの高校生が近くにいらつしやいましたら、ぜひ本学のイベントへのご参加をすすめていただくと幸いです。皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



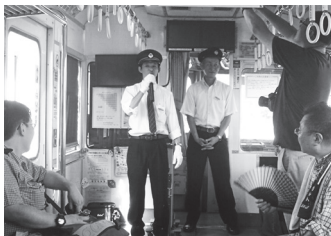
平成三十年年度「銚子電鉄貸切列車の旅」実施報告

平成三十年十月七日、東交祭でも出店をされている銚子電鉄様にご協力を賜り、貸切列車を運行しました。全線を往復する中、途中かつて一世風靡したNHK連続小説ドラマ「濡つくし」で使われた有名なシーンの場所で停車してくれるなどのサービスもありました。

車庫に入った列車の車内では、同窓生で同社社員の鈴木一成さん、笠

原大志さんにより、銚子電鉄の会社説明や歴史、また沿線のゆかり有る施設についてのクイズなどを実施していただき、正解者には銚子電鉄のグッズがプレゼントされました。また、車庫見学では車両の説明もしていただき、参加者の知識を高めることができました。

銚子電鉄様には心より御礼申し上げます。有難うございました。



会社説明を行う鈴木さん、笠原さん



記念撮影



本銚子駅



鉄道むすめ

団体貸切・臨時仕業表					
平成29年3月4日改正					
列車番号	行先	列車種別	運行車両	編成	
臨109	外川	貸切	2000形	2両	
運行日 平成30年10月7日					
団体名 東京交通短期大学同窓会 様					
営業キロ	駅名	発車時刻	保安方式	備考	
0.0	銚子	13:35.00			
0.5	仲ノ町	13:37.00	自動		
1.1	観音	レ			
1.8	本銚子	レ			
2.7	笠上原	13:44.30			
3.2	西海鹿島	レ			
3.6	海鹿島	レ			
4.7	君ヶ浜	レ			
5.5	犬吠	レ			
6.4	外川	13:54.30			
第109列車（臨時）仕業表 下り					
出庫 13:10（入替）			外川返		
13:35			13:54		

貸切列車仕業表

(1 年次)

2019 年度時間割

(2 年次)

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限		1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40		13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40
補 講	基礎ゼミⅠ (藤井)大教室 1	実務基礎 能力論ⅠA/B (眞中)大教室 1	交通概論A/B (栗田)大教室 1	月	補 講	情報リテラシー ⅣA/B (植村) コンピュータ室	交通史(前) (濱)大教室 3	経済政策論ゼミ (高橋) 共同研究室 1
	基礎ゼミⅡ (濱)大教室 2	実務基礎 能力論ⅡA/B (藤井)大教室 2					観光事業論(後) (太田)大教室 3	交通論ゼミ (藤井) 共同研究室 2
	基礎ゼミⅢ (眞中)大教室 3	実務基礎 能力論ⅢA/B (小宮)ゼミ室 1						鉄道史ゼミ (濱) 共同研究室 3
	基礎ゼミⅣ (小宮)ゼミ室 1	実務基礎 能力論ⅣA/B (田邊)ゼミ室 2						
	基礎ゼミⅤ (田邊)ゼミ室 2							
観光関係法規① (前集) (手塚)大教室 1	政治経済(前) (福山)大教室 1	文章表現 技術ⅠA/B (新島)大教室 1	文章表現技術Ⅱ A/B (新島)大教室 1	火	物の流通論(前) (洪)大教室 3	経営組織論(前) (田中)大教室 3	自動車交通論(前) (湯田)大教室 3	情報リテラシー ⅠA/B (小宮) コンピュータ室
キャリア 形成論(後) (栗原)大教室 1	現代社会論(後) (福山)大教室 1	自然科学概論 A/B (中村)大教室 2	環境科学概論 A/B (中村)大教室 2			経営戦略論(後) (田中)大教室 3	ホスピタリティ 論(後) (湯田)大教室 3	コンピュータ 実習A/B (小宮) コンピュータ室
		経営学A/B (田中)ゼミ室 1	マーケティング 論(前) (井戸)大教室 3					
キャリア デザイン(前) (栗原)大教室 1	法学A/B (松岡)大教室 1	基礎英語 (町田)大教室 1	観光地理(前) (有馬)大教室 1	水	交通判断分析ゼミ (松岡) 共同研究室 3	中国語A/B (山口)大教室 3	交通英語(基礎) (前) (大槻)大教室 3	情報リテラシー ⅢA/B (竹内) コンピュータ室
鉄道基礎(後) (中島)大教室 2	鉄道基礎(後) (中島)大教室 2	情報リテラシー ⅡA/B (眞中) コンピュータ室	補講(後)				交通英語(応用) (後) (大槻)大教室 3	
文学A/B (國部)大教室 2	自己表現法(前) (田邊)大教室 1	哲学A/B (関)大教室 1	ビジネスマナー (前) (竹内)大教室 1	木	鉄道経済学(後) (栗田)大教室 3	航空論(後) (栗田)大教室 3	交通経済学(前) (栗田)大教室 3	都市・地域 交通論ゼミ (栗田) 共同研究室 1
情報リテラシー ⅢA/B (植村) コンピュータ室	企業研究 (後) (田邊)大教室 1	情報リテラシー ⅠA/B (植村) コンピュータ室	補講(後)			情報リテラシー ⅡA/B (植村) コンピュータ室	世界の鉄道研究 (後) (櫻井)大教室 3	労働法ゼミ (田邊) 共同研究室 3
観光関係法規② (前集) (手塚)大教室 1	旅行実務論(前) (手塚)大教室 1	経済学A/B (高橋)大教室 1	心理学A/B (兼高) 大教室 2	金	キャリア 情報論(前) (栗原)大教室 3	交通政策論(前) (藤井)大教室 3		
コミュニケーション論(後) (天野)大教室 1	交通事業論(後) (藤井)大教室 1	歴史学A/B (濱)大教室 2	体育実技A/B (早川)体育館		観光プランニング 実践(後) (手塚)大教室 3	鉄道史(後) (濱)大教室 3	鉄道システム論 (後) (前橋)大教室 3	
			保健体育理論 A/B (藤城)ゼミ室 1					
特別教養講座 A/B (高橋)大教室 1	観光学概論A/B (高柳)大教室 3	検定英語 (小池)大教室 3	コンピュータ 基礎(後) (柴田) コンピュータ室	土	ビジネス倫理(前) (大田)大教室 2	簿記論(前) (大田)大教室 2		補講
		情報リテラシー ⅣA/B (小宮) コンピュータ室	補講		交通需要論(後) (眞中)大教室 2	交通環境論(後) (笠井)大教室 2	海運論(後) (栗田)大教室 2	

2019年度 特別教養講座日程表

前期(土) 13:10～14:40

開講日	講演者		テーマ
2019年4月13日	大坂 直樹	株式会社東洋経済新聞社記者	鉄道を通じて経済、社会を学ぶ
2019年4月20日	平田 一彦	株式会社東武カードビジネス 常勤監査役	社会経済環境の変化と都市鉄道経営
2019年4月27日	荻原 俊夫	元東京急行電鉄株式会社	鉄道員としての毎日
2019年5月11日	石村 誠人	ちよだ政策総合研究所代表 (駅デザインとパブリックアート研究会 代表)	これからの駅舎建築とパブリックアート管理の 在り方等を通じて学ぶべきこと (生きること、働くことの意味は何か)
2019年5月18日	新野 誠一	NHK 編成局 展開戦略推進部 チーフプロデューサー	日英国際共同制作番組から考える鉄道の安全
2019年5月25日	野尻 俊明	学校法人日通学園 流通経済大学学長	貨物自動車運動事業規則の変遷
2019年6月 1日	井上 治	拓殖大学政経学部長・教授	インドネシアの鉄道事情
2019年6月 9日	亀山 直人	日本貨物鉄道株式会社 関東支社総務部部長	鉄道貨物輸送の現状
2019年6月15日	齋藤 順治	株式会社 J R 東日本ステーション サービス相談役	J R 東日本グループの発足から 将来について
2019年6月22日	石上 七緒	松蔭大学コミュニケーション 文化学部長 教育開発センター長	古代の交通と信仰
2019年6月29日	鹿住 良人	株式会社かすみ交通代表取締役	タクシー新時代 ー未来社会が求めるタクシーサービスとはー
2019年7月 6日	広田 健介	株式会社全日警 人事部人材採用部長	広域高速鉄道網等のインフラ建設を推進して、 インド・太平洋地域の経済発展に日本は、如何 に貢献するべきか！！
2019年7月13日	前田 忍	公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズム ビューロー理事・事業本部長	鉄道事業と地域の活性化
2019年7月27日	武田 浩一	本学同窓会副会長	鉄道業界は「こうだった」を運転士が教えます

後期(土) 13:10～14:40

開講日	講演者		テーマ
2019年 9月28日	尾崎 正明	東京急行電鉄株式会社 内部統制室専任主幹	鉄道運転士に求められるもの
2019年10月 5日	岩武 光宏	近現代史研究家	幕末維新と社会変動
2019年10月12日	平柳 聡	造景師(情景モデラー)	模型で表現する生活感に密着する鉄道の魅力
2019年10月19日	半沢 貞夫	本学同窓会会長・元交通新聞社 出版編集部長	鉄道開業 150 年 成立と発展に尽くした人々
2019年10月26日	花上 嘉成	元東武博物館名誉館長、 現東武博物館友の会会長	鉄道の役割
2019年11月 2日	岡本 久	本学元学科長・本学名誉教授	これからの交通を考えてみよう
2019年11月 9日	川島 一郎	東日本鉄道OB会 東京地方本部専務理事	元気な J R 東日本グループ
2019年11月16日	大島 功	株式会社ジェイアール東日本 都市開発総務部次長	J R 東日本の現状と企業が求める社会人につい て
2019年11月30日	田中 宏司	本学元学長・本学名誉教授	コンプライアンス経営と C S R 経営 ー企業人になるための心構えー
2019年12月 7日	成瀬 敏郎	東京情報大学名誉教授	法的リスク・マネジメントの世界
2019年12月14日	平野 琢	九州大学大学院経済学府 専任講師	鉄道事故の防止とリスクマネジメント
2019年12月21日	佐藤 美知男	公益財団法人交通協力会 鉄道史資料調査センター研究員	私が旅で知得したことー百聞も一見もー
2020年 1月11日	吉田 一宏	東武鉄道株式会社資産管理部課長	鉄道業における資産活用について
2020年 1月18日	米山 淳一	公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事	鉄道遺産を生かしたまちづくりと観光

(敬称略)

〔会員解放区〕

台湾良いとこ一度はおいで

第四十一回生 中澤 淳



は一年を通じて気候が安定しており、台湾人がいちばん住みたい街とも言われています。

以前は東京都内の電子部品メーカーに勤務していました。勤務先は日本国内に自社工場を持たず、中国と台湾のメーカー



台鉄 CK124 高雄港車站

現在、私は台湾中部にある台中市で日本語教師として働いています。台中市

に製品の製造を委託していたため、業務上でやり取りをするうちに中国と台湾にも興味を持つようになり中国語の勉強を始めたほか、毎年海外旅行で台湾を訪れるようになりました。

そんな生活を送っていた中でまさかの中国赴任となり、福建省深圳市で働いていましたが、慣れぬ土地での仕事で体調を崩し退職。それでも再び中国や台湾へ行きたいとの気持ちは残り、中国東北部の遼寧省大連市にある大学で一年間中国語をみっちり学びました。その甲斐あって中国語はまだぺらぺらとまではいきませんが一人で生活をこなせるレベルに達し、その後台湾に渡り、台湾での生活も八年目に入りました。

台湾には日本の文化に興味を持つ人が老若男女を問わず非常に多くいます。日系企業も多く進出しており、街中ではお馴染みの看板や商品をよく目にします。今後日本と台湾の交流に微力ながら役に立ちたいと思っています。

在学中は鉄道研究部に所属し、仲間たちと鉄道旅行などを楽しんでいましたが、台湾でも相変わらず鉄道を追いかけています。

写真は日本の C12 型蒸気機関車と同型の台湾鉄路管理局(台湾の国鉄に相当)の

CK124 で時々イベント列車の先頭に立つことがあります。その他にも日本の C57 型と同型の CT273、D51 と同型の DT668 も動態保存されています。日本では少なくなった客車列車もまだまだ現役で活躍しています。

また、台湾鉄路管理局は日本の鉄道会社との友好関係を強めており、先日私の故郷である長野県内を走るしなの鉄道で活躍している 115 系電車の塗装をラッピングした車両がお目見えしました。皆さんも台湾を訪れて列車の旅を楽しんでみてはいかがでしょうか？

(地球村美日語短期補習班勤務)



台鉄 CK124 新左營車站

過去の経験は結び付く

第四十二回生 金子 重由



私は現在、観光バスの会社でディサービスの送迎業務をしています。

学生時代は、鉄道の仕事がしたいと思い就職活動を行いました。就職氷河期といわれた時期で、採用募集を見合わせる企業も多く、採用試験の倍率は高く狭き門でした。

就職が決まらず、卒業後にタクシー会社の事務員として就職、その後観光バスの会社に転職しました。事務職や福祉バスの添乗員ではバスガイドの真似事など日々のいろいろなことを経験し、その頃には鉄道業界より観光バス業界が好きになっていました。

ちょうどその頃、母親に認知症が発症し、介護が身近な問題となっていました。そのため一念発起で会社を退職、介護業界に就職のため講習を受け、ディケアでリハビリをメインに行う会社に就職しました。

通常の業務内容は、送迎、入浴介護、トイレ介助、配膳、レクリエーション等



ディサービス 送迎車

で忙しい日々でしたが、利用者とのコミュニケーションが好きになり介護福祉士の資格も取得しましたが、母親の施設入所が決まった頃、また観光に携わる仕事をしたいと思うようになりました。

そして今の観光バス会社に入社、運転士としては未経験なため、仕事に慣れるためディサービスの送迎業務から始めました。施設は墨田区北部で、神奈川県に住む私にとって道路を覚えることは大変でしたが、先輩のアドバイスによって意外に早く覚えることができました。一年半が経った頃、別の施設からの委託で、墨田区全域を担当することとなり、一からの覚え直し状態でしたが、毎日の送迎

では地元の人と勘違いされる程となりました。

入社五年目となり、希望した観光の仕事には就いていませんが、介護利用者とのコミュニケーションなどこれまで携わった仕事の経験がうまく結び付いているようで不思議な感じがします。

学生時代の希望は叶えませんでした、充実した今の日々をできる限り続けたいと思います。

(富士自動車株式会社観光部勤務)

思い出の「大志田駅」

第四十五回生

竹下 光



二〇一四年、当時私は前の職場で労組の役員となり「分会書記長」という役

職に就かされました。明け、休みは労組の活動に取られ、自分の心と体を休ませる時間はなく、携帯電話にも上部の先輩役員から電話越しの説教、私の精神状態はストレスで限界を超えていました。

「現実逃避」をしたい。そんな思いで降り立ったのは、山田線の「大志田駅」

でした。

上野駅を十六時半頃発車の新幹線「はやぶさ」に乗り、盛岡駅で山田線宮古行の列車に乗り換え、「大志田駅」到着は十九時二〇分。周囲は真っ暗、聞こえてくる音は近くを流れる小川のせせらぎ、携帯電話は圏外、一切の雑音は入らず、まさに現実逃避の出来る場所と感じました。「帰りたくない、ずっとここにいたい」という気持ちも、二〇時過ぎの盛岡行列車のライトが見えた瞬間一気に現実に戻され、盛岡駅発東京行き最終「はやぶさ」の車内では、待っていたかのようには先輩役員からの着信音。

その後も、一方的なやり方は続き、ついに不眠症を発症、通院する羽目に、このことが労組に知れ役員を解かれることとなりました。お陰で今ではすっかり心も体も元の状態に戻ることができ、今の職場で勤務に励んでいます。

あの時、現実逃避した「大志田駅」も、利用者の減少により平成二十八年に廃止されましたが、あの光景は今でも私の記憶の中に残る駅となっています。

(東日本旅客鉄道㈱ 土浦駅勤務)

平成三十年度 総会、東交祭同窓会コーナー開催

平成三十年九月十五、十六日の両日、東交祭のブースとして同窓会コーナーを設営しました。今回は落語家の三遊亭一遊様をお招きして、十五日十五時より一席設けていただき、その後十六時より新校舎初の総会を学内にて開催いたしました。

会には、松岡学長、高橋学科長にもご列席賜り、平成二十九年年度会員報告、事業報告、会計報告が行われ、了承されました。総会終了後、会場を地球飯店に移し懇親会を開催、会員同士の懇親を深めました。

今年も九月二十一日、総会、同窓会コーナーを新校舎で開催します。ぜひ新校舎にお越し下さい。



三遊亭一遊さん
一席
懇親会風景



会 計 報 告 書 (平成 3 0 年度)
(平成 3 0 年 4 月 1 日～平成 3 1 年 3 月 3 1 日)

平成 3 1 年 4 月 1 日
東京交通短期大学 同窓会

収 入 の 部			支 出 の 部		
項 目	金 額	摘 要	項 目	金 額	摘 要
繰越金	459,825 円		集会費	222,509 円	東交祭・幹事会懇親会、イベント列車
会費	350,000 円	5,000 円×70 名	事務費	171,948 円	賞状代、封筒代
臨時会費	133,500 円	総会懇親会、イベント列車	通信費	399,916 円	会報 42 号発行・発送費 東交祭・総会開催案内等
寄付金	65,808 円	会員 5 名ほかより	渉外費	119,668 円	会長賞記念品、学園 90 周年祝 香典、東交祭イベント
雑収入	4 円	利息	会議費	53,600 円	幹事会打合せ等
			雑費	8,200 円	同窓会室備品
			繰越金	33,296 円	
収入計	1,009,137 円		支出計	1,009,137 円	

この報告書は検討の結果、その収支は正當かつ妥當であることを認めます。

平成 3 1 年 4 月 1 日 会計監査 堀 丈夫[㊞]、会計監査 村越 輝夫[㊞]

令和元年度総会の開催、並びに
東交祭・同窓会コーナーの設置
について

令和元年九月二十一日(土)十六時
十五分より学校において「令和元年度
同窓会総会」を開催いたします。なお、
総会終了後懇親会を十七時三〇分頃よ
り会場を移して開催いたします。

参加人数把握のため総会と懇親会
に「出席」される方は同窓会事務局宛
に郵送か、Email: toukouob@gmail.com
にご連絡下さい、また懇親会について
は QR コードを読み取り、お申し込み
ください。

懇親会の会場は、池袋西口ロサ会館
内三階の店舗「大馬鹿地蔵」になりま
す。例年と開催場所が異なりますので
ご注意ください。

なお、二十一日(土)～二十二日(日)
の両日に「東交祭」が開催されます。
八階に「同窓会コーナー」も設置し、
鉄道グッズの配布や現場第一線で働く
「鉄道社員の日」と題する話を予定
しております。こちらの来場は自由で
すので、皆さまの参加をお待ちしてお
ります。



令和元年度
「都電荒川線貸切列車の旅」(予定)
参加者募集

令和元年度の同窓会イベントとして、
「都電荒川線貸切列車の旅」を企画して
います。

日時は、令和元年十一月一日(日)、
昼過ぎに都電早稲田駅に集合。貸切列車
の後に車庫見学を予定し、十六時頃解
散、その後懇親会を行うこととしていま
す。

現在、実行委員会と東京都交通局と折
衝中ですが、内容変更になる場合もあり
ます。

企画内容の確認、お申し込み方法は
Email: toukouob.event.kasiki.r@gmail.
com 宛お問い合わせください。

編集後記

▼会報の作成編集に本格的に立ち入りま
した。皆さまのご協力大変恐れ入ります。
今後の活動は、会員に便利であると共

お知らせ

一、会報バックナンバー
インターネットより、<http://toko.hosho.ac.jp/association.html> にアク
セスしていただき、会報ボタンをクリック
すると二十二号から三十二号まで閲覧
できます。

二、同窓会運営スタッフ募集
同窓会が行う行事や会報の発行、ホー
ムページ作成などにご協力いただける方
を募集しています。同窓会事務局宛書面
若しくはメールにてご連絡下さい。

三、会報原稿募集
①題材 自由
②要領

・文章の場合、原稿用紙か電子データの
入ったメディアを郵送、または電子メ
ールにて、八〇〇字程度でお送り下さ
い。

・写真・イラスト・カット等はそのまま
使用します。
・いずれもタイトル、卒回(あるいは卒
業年度)、氏名、勤務先(元の職場)
を明記し、写真を添付して下さい。

③原稿締切 毎年三月末日
④送付先 〒一七〇一〇〇一
東京都豊島区池袋本町二一五一十五
東京交通短期大学 同窓会事務局 宛
Email: toukouob@gmail.com

に合理的、能率的に行われることを目標
とします。(T)

会長交代に伴い…と言う訳ではありませんが、来年の会報から大幅なリニューアルを予定しています。会員解放区の原稿は引き続き募集しますので、よろしく
お願いいたします。(I)